

本指導案は、「2017年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業
美術科学習指導案

〇〇中新聞特派員現地緊急取材報告

～私は見た、ペリー提督が黒船から上陸した瞬間を!!～

1. 題材名

2. 題材作品

伝 ペーター・B.W.ハイネ 作《ペルリ提督横浜上陸の図》
1854年以降 油彩、カンヴァス 53.3×80.5cm 横浜美術館蔵

3. 実施学年

第2学年

4. 学習指導要領との関連

B鑑賞(1)ア、イ

5. 本題材について

横浜美術館コレクションの中から、伝ペーター・B.W.ハイネ作《ペルリ提督横浜上陸の図》を鑑賞作品に選び、社会科との教科連携で共有して扱うことにより、本作品が開国を迫るペリー一行の随行絵師が描いたとされるものであり、ある意味、日本を開国させたうえで不平等条約を締結させた成果を伝達するための役割を持っていたことなど、「開国の地横浜」に刻まれた史実を学んだ上で、現在横浜に暮らす一人として、より深く実感しながら学ぶことのできる活動としたい。

また、「記録ならなぜ写真ではなかったのか？」という問いかけをし、同館コレクションの一つで国指定重要文化財でもある、ペリー艦隊随行写真技師ブラウン・ジュニア撮影の《遠藤又左衛門と従者》も取り上げ、初期の写真技術や芸術としての価値について知るため本題材を設定した。

6. 題材目標

小学校時の学習資料にも掲載されている同図像の存在は知ってはいるものの、詳細をじっくり鑑賞した経験はそれほどないと思われる。そのため、あらためて鑑賞することでの気づきや疑問点を「新聞記者の取材」という設定でピックアップさせ、次時の社会科授業で確認することにより、史実をふまえたグローバルな視点で捉え、「開国の地横浜」の姿をより深く学ぶことができる。

また、写真作品の芸術的な意味合いや初期の写真技術を知るきっかけとし、幕末から明治維新期の歴史的な変動と、それを今に伝える写真や絵画の価値を学ぶことができる。

7. 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
見たことのある絵をあらためて鑑賞し、率直に感じたこと・気づいたこと・疑問点などを取材するという設定で、自分なりの視点と興味関心を持ってまとめることができる。 また、仲間と話し合うことで、違う見方や考え方を理解し参考にしようとしている。	写真技術が開発されて間もない当時は、画家が史実を記録し広く伝える役割を担っていたことを知り、美術作品を鑑賞することは、純粋に作品を味わうことだけではなく、そこに描かれていることから、様々な事実や考えなどを推察できる価値や楽しさがあることを知ろうとしている。



8. 準備

- ・全体の進行ツールとして、パワーポイント作成映像を活用
- ・作品図版《ペルリ提督横浜上陸の図》…カラーA4版(一人一枚)と4分割画像
- ・社会科と連携して作成した、日本人記者になりきり取材するメモ用シート「取材用記録ノート」(右図)
- ・作品図版《遠藤又左衛門と従者》…カラー版(掲示用に一枚)

ここは各校の校章・名称・住所などを入れてご使用ください



9. 授業展開 (全1時間)

	生徒の活動	教師の指導・支援
導入 2分	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学んだ『わたしたちの横浜』に掲載された目にしたことのある絵《ペリリ提督横浜上陸の図》を美術の授業であらためて鑑賞する目的を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『この絵観たことあるよね？この絵はいったいなんだろう？』と、あらためて問いかける。 ・その上で、何となく知っている絵には何が描かれ、何の目的で描かれたのか、新聞記者になって詳しく取材するつもりで読み取ってみようとして投げかける。 ・雰囲気づくりのため、初代アメリカ国歌「Hail Clombia」(ペリー上陸時楽隊によって演奏された曲)を流す。
展開 (1) 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇中新聞記者として現地取材しているつもりになって、率直に感じたこと・気づいたこと・疑問点などを「取材ノート」に書き留める。 ・4つに分割された画面を分担し、描かれているものを詳しく探っていく。 ・途中で、仲間のとらえた情報との交換会を行うことで、違う視点にも気づかせるとともに考えを共有し、さらにメモしていく。 ・何となく知っていた絵に描かれていることを確かめながら、どんなことが記録されているのか興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部分を4つに拡大したものも用意し、相談して選ばせ一人ひとり詳しく探りながら「取材ノート」にメモをさせていく。 ・『他の記者と情報交換してみよう』と促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>詳細を観察するためのルーペがあると良い</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気づいたことについては、次回社会科の授業で確かめていくことを伝える。
展開 (2) 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ頃撮影された《遠藤又左衛門と従者》をみて、なぜペリー上陸時の記録は写真ではなく絵で残されているのか考えてみる。  <p>エリファレット・ブラウン・ジュニア《遠藤又左衛門と従者》 1854年 ダゲレオタイプ 11.4×8.2cm 横浜美術館蔵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やり取りを通じ、草創期の写真がどのようなものであったかを知る。 (動きのあるものは技術的に撮影できなかったことを知る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなやり取りで学びを進めていく。 『ところで新聞の取材の時、記者に同行するのは何だろう？』⇒『カメラマンじゃない』 『そうだよね。この頃、写真はなかったのかな？』 ⇒『あった』『なかった』 ・《遠藤又左衛門と従者》をみせながら…。 『これ横浜美術館に所蔵されている重要文化財になっている写真なんだよ』 ・重要文化財になっている理由は、日本人を国内で撮影したもっとも古い写真の一つだからということを知りながら確認する。 『何で3人とも表情が硬いんだと思う？』 ⇒『緊張しているから』 ⇒『侍だからいかついんじゃないの？』 ⇒『笑っちゃいけないから』⇒『なんで？』 ・さらに、ペリー上陸の様子は写真は無く絵と版画しか残っていないことも伝える。 『写真屋が随行していたのに、なぜ上陸の様子が写真で残されていないんだと思う？』⇒『撮るのは(鎖国中なので)禁止されたのでは？』 ・動くブレてしまうことに気づかせたい。 ・ペリーの行進などの動きは、写真記録に残すことは難しかったことを理解させる。
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時であらためて確認できたことをもとに、次時の社会科の時間でしっかりと確かめたいことをチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や社会などそれぞれの教科の学びは関連づいていて、一つのことでも違った面からアプローチできることを理解させたい。

■ 指導案作成者からのメッセージ

今年度、横浜美術館から提示された作品群の中でも、この作品は歴史の記録画的な意味合いが濃く、美術のもう一つの役割に気づかされ、授業として掘り下げようと考えた。

この絵は『わたしたちの横浜』という横浜の歴史を学ぶ本で最初に出会う絵である。中学校社会科で幕末から明治維新の礎を学ぶ際、どのように扱われているのかを確かめてみたくなり、社会科との共同研究を持ちかけた。ちょうど、新学習指導要領で「教科横断的な取組」の視点が示されたので、タイミングも良いと考え、本校2年生の授業実践まで辿りつくことができた。

指導案を作る上では、この作品を純粋に味わい感じ取るためには、どのような切り口で授業を構成していくべきかが、一番悩み試行錯誤を繰り返した点である。最終的にはタゲレオタイプ（銀板写真）も使い、貴重な文化財であることの意味に視点をあてながら学びを交差させた。美術科・社会科相互の学習内容がより深い学びへとつながること、2時間の授業のつながりに配慮することを最も大事にした。

今回は横浜美術館の所蔵作品を活用した取り組みであったが、本校ではそのほかにも、イギリスのターナーの作品を産業革命の説明などで活用することを検討するなど、教科間交流や社会科以外の教師も交えた職員室内での美術作品を通じた話題が増え、今後のさまざまな広がりや学びを織りなしていく視点を持つ良いきっかけになった。「開国の地横浜」ならではの授業実践例としてだけでなく、より発展した形での取り組みを今後も増やせるよう、多くの指導者が新たな取り組みを行い、横浜美術館という情報の泉を活用し、共有を図っていただけたらと願っている。

■ 参考文献

- ・『ペリー来航と横浜』横浜開港資料館、2004年
- ・『ペリー提督日本遠征記』（上・下）角川ソフィア文庫、2015年
- ・西川武臣『ペリー来航』中公新書、2016年

（指導案作成：横浜市立中学校教諭 金阿彌 勉）